

東京学芸大学先端教育人材育成推進機構 外国人児童生徒教育推進ユニット(ユニットC)

シンポジウム2024 2025年2月24日  
子どもたちの多様性が活かせることばの教育

午前 10:00-12:00  
本ユニットの研究成果報告



# 分科会2 高等学校の日本語プログラム開発(経過報告) 本開発事業について

東京学芸大学 齋藤ひろみ

# Ⅰ 日本語プログラム開発の目的と事業内容

## 目的

国内で日本語を学ぶ子どもたちのための日本語のプログラムを開発し、幼稚園・小・中・高等学校の日本語学級・国際学級及び担当者、また、地域で日本語学習支援を実施している団体・ボランティアの方に提供し、日本語教育の更なる充実に資する。

## 事業内容

幼稚園、小学校、中学校、高等学校における日本語教育の体制・仕組みに応じ、対象の子どもたちが日本語や母語の力、生活・学習経験、教科等の既有知識・技能等を生かした日本語教育が実施する上で参照できる日本語プログラムを開発し、その活用方法について活用事例集等を作成して提供する。(本ユニットのウェブサイト、研修等の印刷物)

## 2 プログラム作成のスケジュール・計画

年次計画(2024～2026 年度)

|             | 2024(R6) | 2025(R7) | 2026(R8) |
|-------------|----------|----------|----------|
| 全体設計(コア)    |          |          |          |
| 高等学校(担当)    |          |          |          |
| 中学校(担当)     |          |          |          |
| 小学校(担当)     |          |          |          |
| 幼稚園・保育園(担当) |          |          |          |

### 2024年度事業内容

高等学校における日本語指導プログラム(本ユニット(2023)『高等学校の日本語指導・学習支援のためのガイドライン』)の再検討と、プログラムの実践事例を収集し、公表する。

- 1)「個別の日本指導計画」(実施例)
- 2)日本語プログラムと授業のシラバス(実施例、案)
- 3)授業・活動の実施例

### 3 高等学校の日本語プログラム —対象と構成— 『ガイドライン』より

#### (1) 日本語を学ぶ高校生

|   | 滞日<br>期間 | 生活言語<br>能力 | 学習言<br>語能力 | 母語等の<br>言語の力 | 学力・<br>思考力 | 日本語指導・教科学習等の支援                  |
|---|----------|------------|------------|--------------|------------|---------------------------------|
| A | 短い       | なし         | なし         | 学年相当         | 学年相応       | 生活適応のための日本語指導から開始               |
| B | 3年程度     | 対応可能       | 不十分        | 学年相応         | 学年相応       | 日本語の基礎的内容の補充と教科学習・自己実現のための日本語指導 |
|   |          | 十分         | 不十分        | 停滞           | 遅滞気味       | 教科学習・自己実現のための日本語指導              |
| C | 長い       | 十分         | 不十分        | 未発達          | 遅滞         | 教科学習・自己実現のための日本語指導              |

## (2) 4タイプの日本語プログラム

### プログラムA 「生活のための日本語」

来日後の日本での学校・社会生活を送るために必要な基本的な日本語の語彙・表現を学ぶプログラム。日本語を使って困難や問題を解決するために行動できるようになることを目標とする。

### プログラムB 「日本語基礎」

日本語の基礎的な構造・意味・機能を理解し、生徒の生活場面や学習場面で運用できるようになることをねらいとする。日本語基礎は日本語の学習経験がない生徒を対象とし、順にⅠ→Ⅱ→Ⅲと積み上げて学ぶように構成されている。

### プログラムC 「技能別日本語」

まとまりのある内容の文章・談話を聞いたり、話したりする力、そして、読んだり書いたりする力、を高めるプログラム。タスク(課題)を設定し、そのタスクを遂行するプロセスで、学習した日本語の基礎的な構造・意味・機能に関する知識を活性化し運用することを促す。

### プログラムD 「日本語プロジェクト」

外国人生徒が共生社会の一員として自己を実現し、よりよい社会をつくるために、実際に問題・課題を解決する活動(プロジェクト)を通して、思考し、判断し、表現するためのことばの力を高めることをねらいとする。

## 4 取り組んでいること

- 1) 開発メンバーの取り組み
- 2) 実施している授業を
- 3) プログラム例・案を伝

生徒の入学から卒業、そして進路までを見据え  
学習を日本語学習の連続性に留意し、  
他の学習・経験との重なり・相乗性を  
包括的にイメージできるように

プログラム例Ⅰ ( ) クラス ( ) 小グループ ( ) 個別

対象生徒：定時制高等学校 1 年生 タイプ A (滞日 6 か月)

日本語プログラム 履修イメージ

文章による説明：卒業後の進路のイメージとそのためのプログラム配置の工夫

|                    | 1 年 | 2 年 | 3 年 | 4 年 |
|--------------------|-----|-----|-----|-----|
| プログラム A「生活のための日本語」 | →   |     |     |     |
| プログラム B「日本語基礎」     | →   | →   | →   | →   |
| プログラム C「技能別日本語」    | →   | →   | →   | →   |
| プログラム D「日本語プロジェクト」 |     | →   | →   | →   |

卒業までの指導・支援

|                | 科目(単位)／具体的な支援内容                                                                                                                                                                                                                                          |
|----------------|----------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|
| 日本語指導<br>(3単位) | 1 年 放課後に実施「日本語表現」 <b>C 技能別日本語(1単位)</b><br>+日本語基礎(漢字語彙・表現)<br>+アンケートの実施と動画公開<br>2 年 放課後に実施「日本語で社会参加」<br><b>D 日本語プロジェクト「地産地消」(1単位)</b><br>+日本語基礎・技能別日本語(JLPT「N2にチャレンジ」)<br>3 年 放課後に実施「日本語でキャリアを拓く」(1単位)<br><b>C 技能別日本語</b> + 日本語基礎<br>+プロジェクト後輩に進路選択の相談にのる |
| 教科学習支援         | 1 年 学校設定科目「数学基礎」 習熟度別クラス「公共」「家庭科」「保健体育」<br>2 年 学校設定科目「多文化共生」                                                                                                                                                                                             |
| 母語支援           | 面談の通訳 保護者への通知の翻訳                                                                                                                                                                                                                                         |
| キャリア支援         | 1 年次 ゲストスピーカー 2 年次 職業体験 3 年次 インターンシップ                                                                                                                                                                                                                    |
| その他            | 部活動への参加支援                                                                                                                                                                                                                                                |

## 4 プログラムの検討を通じて改めて...

- ☒ 日本語を学ぶ場をどのように構成し提供することが
- ☒ 対象の生徒の主体的な社会参加をすることになり
- ☒ 周圀(学校・社会)は、新たに何を創造し、何をどう変えていく必要があるのか

(1) 指導計画(シラバス: 授業で取り扱う学習項目一覧)

(所属校の)日本語の授業のシラバス (1 科目分の年間指導内容)

文章で説明:教育者としての設計意図・ねらい(日本語でどのような問題・課題が解決できるようになることを目指すか)。そのために、内容構成や活動、リソースをどのように工夫するか。



|                             |                                                                                     |                                                                                             |                                 |
|-----------------------------|-------------------------------------------------------------------------------------|---------------------------------------------------------------------------------------------|---------------------------------|
| 1 科目名・単位数(時間数)              |                                                                                     |                                                                                             |                                 |
| 2 対象生徒<br>( )人              | 滞日歴                                                                                 | 日本語の力                                                                                       | 母語の力<br>教科等の力                   |
| 3 履修学年                      |                                                                                     |                                                                                             |                                 |
| 4 目標<br>可能であれば、3観点に分けて目標を設定 | 知識・技能(日本語の知識・技能)                                                                    | 思考・表現・判断力(日本語でどのような認知活動をするか)                                                                | 学びに向かう態度(日本語学習への動機付け・自律性・自己調整力) |
|                             |                                                                                     |                                                                                             |                                 |
| 5 プログラムのタイプ                 | ( )A(生活のための日本語) ( )B(基礎日本語)<br>( )C(技能別日本語) ( )D(日本語プロジェクト)<br>主なプログラム:◎ 副次的プログラム:○ |                                                                                             |                                 |
| 6 シラバス ※<br>(指導内容一覧)        | トピック・内容/主な活動/語彙・表現など                                                                |                                                                                             |                                 |
|                             | 1                                                                                   |                                                                                             |                                 |
|                             | 2                                                                                   |                                                                                             |                                 |
|                             | 3                                                                                   |                                                                                             |                                 |
|                             | 4                                                                                   | ～について、～を行う。(保育園で先生が使用することばについて、母語に訳したほうが良いものを選び。)<br>語彙・表現: まるごとの課の主な表現<br>～を訳したほうが良いと思います。 |                                 |
|                             | 5                                                                                   | 語彙・表現: 質の高い教育 うけるための工夫 ～する必要がある。                                                            |                                 |
|                             | 6                                                                                   |                                                                                             |                                 |
|                             | 7                                                                                   |                                                                                             |                                 |

# 文部科学省委託事業

## 「高等学校における日本語指導体制整備事業」（令和4年・2022年度）

### 成果物

#### 『高等学校における外国人生徒等の受入れの手引』

高等学校における外国人生徒等の受入れの手続き、日本語指導の仕組み、支援体制作りに関する考え方や事例、そして関連する情報で構成しています。

[https://kodomonihongo.ugakugei.ac.jp/.assets/M22\\_koko\\_nihongo\\_tebiki.pdf](https://kodomonihongo.ugakugei.ac.jp/.assets/M22_koko_nihongo_tebiki.pdf)

#### 『高等学校の日本語指導・学習支援のためのガイドライン』

日本語指導、教科指導・教科学習支援、キャリア教育、多文化共生教育に関し、具体的な内容構成や実施方法を提案します。本事業で実施した調査を通して収集した具体例や実践・取り組み事例、また、関係者の声なども採録しています。

[https://kodomonihongo.ugakugei.ac.jp/.assets/M22\\_koko\\_nihongo\\_guideline.pdf](https://kodomonihongo.ugakugei.ac.jp/.assets/M22_koko_nihongo_guideline.pdf)

